



咲
露

清
安

大和守安定
加州清光


DalcRose*moshi
Tohkenranbu FAN BOOK Vol.10







咲
か
な
か
つ
た



思
え
ば、
そ
こ
か
ら
だ
つ
た



あ
の
日
は、

特に
暑い日だった

やめろって
…清光

暑くないの…？

俺も
暑いよ？

なら
離れろよ

やだ

……今は
そういう気分
じゃないし

だいたい
こない
時間から……

じゃあ
今じゃなくて
夜なら?

はあ?

そうじゃなくて、

誰かに
見られたら
どうするんだよ

今日暑いから
誰も外に
出歩いてないでしょ

……あー
もうわかった

適当!!!

ちゅ

はあ……

本当、
お前ってさあ



何？

僕は
その日一日

……ううん



帰ろ

庭の葬が
咲かなくて

機嫌が
悪かった
だけなんだ

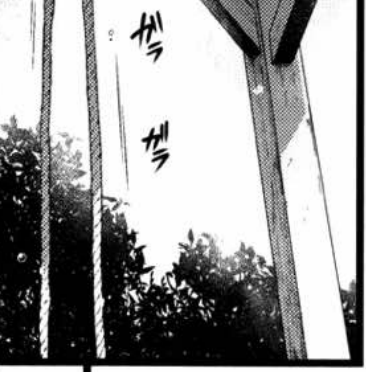




ちよ
よかつた
うど

んし、
終わつたよ

あ、
清光くん
畑当番
終わった？



みんな
お昼ご飯に
しよう



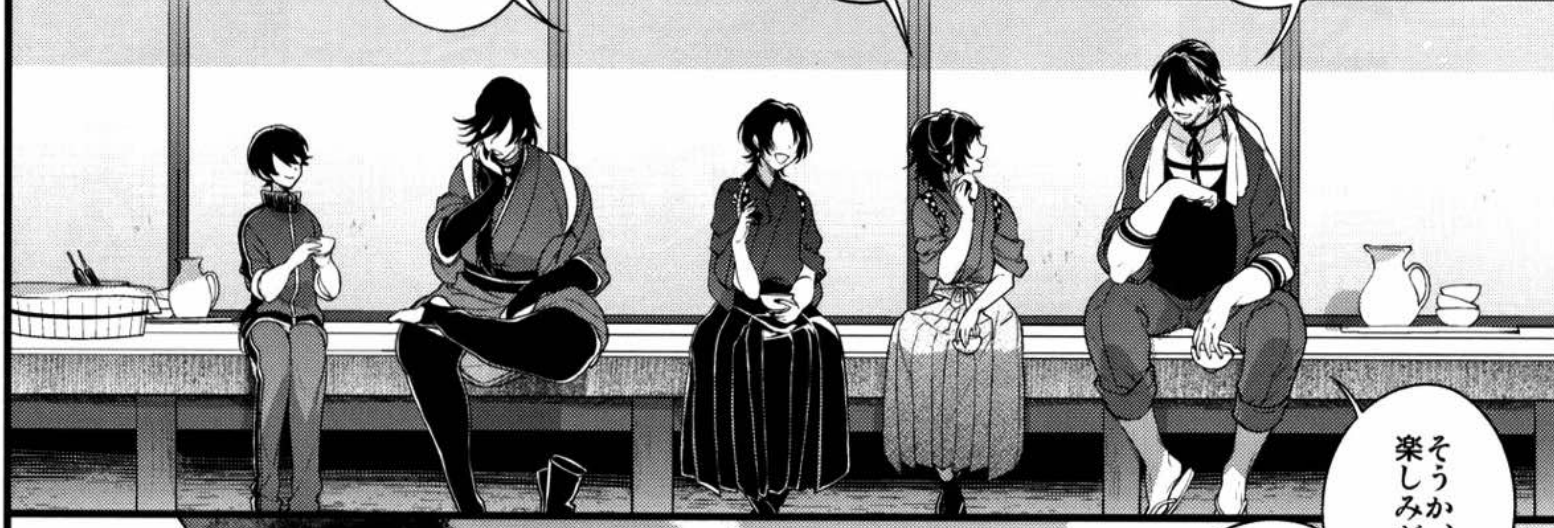
胡瓜畑の
調子はどうだ？

先週は
まだ実が
小さかつたんだが

もう随分
大きく
なつてたし、

もうそろそろ
収穫できるんじゃないかな

茄子畑も
順調だったよ



そうか、
楽しみだな

これだけ
思つたが
植物
強いの

国広
もにぎ

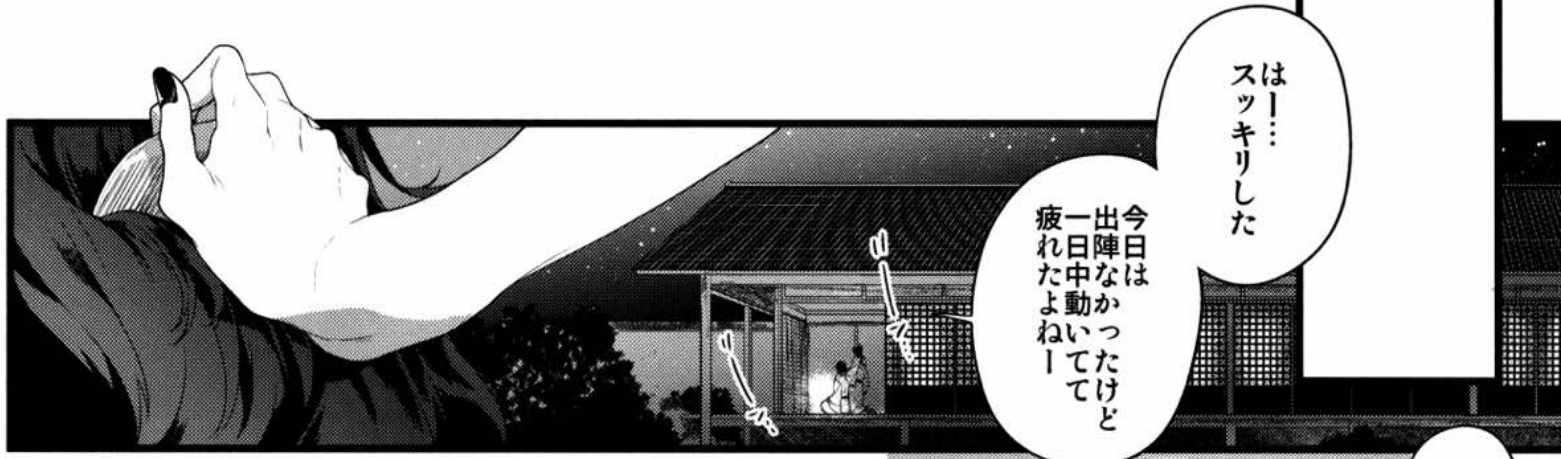
兼さん
つ顔
いて



早いなあ...

もう一日...
終わるんだ...

カヤ
カヤ
カヤ



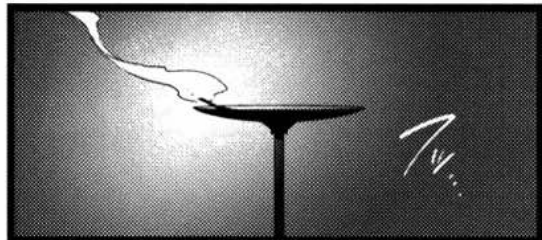
はー…
スツキリした

今日は
出陣なかつたけど
一日中動いてて
疲れたよねー



んー

もう
明かり消して
寝よつか



うん

でも
そんな日も
あつていいん
じゃない?

おはい、
完了
手入れ

そん、
そーね…



今日も一日が

終わってゆく

今日も一日
清光と居た

ねえ、
安定

何？

何って、

あのさ

昼間のこと？

お前も
いい加減…

特に拒む理由なんて
今は見当たらなかった

清光となら
別に嫌いじゃな

清光は
主が選んだ
初期刀だから、

一応、
この本丸では
年長者なわけだし、

知っていて
当然のこと
余計なもの
もある

清光の場合、
その余計な
ことの方が
多いけど。

でも、
この厄介な身体を
どうこうする術は、

僕より
清光の方が
詳しい

ふはっ

はっ

はっ

ただ一つ
言えるのは

「お互い深く干渉しない」

暗黙の了解
というか、

お互い干渉しちや
距離を知らない程度に
保つていて

その境界に立ち入ると
お互いのために、
きつとよくない。

だから、
黙ってる。

でも、
お互いのことは
わかっている。

向こうが
何を望んでるかを、

何をなくしちや
いけないかを。

僕達には
あるけど、

沖田くん
あることに
違いない。






ほっ

ほ

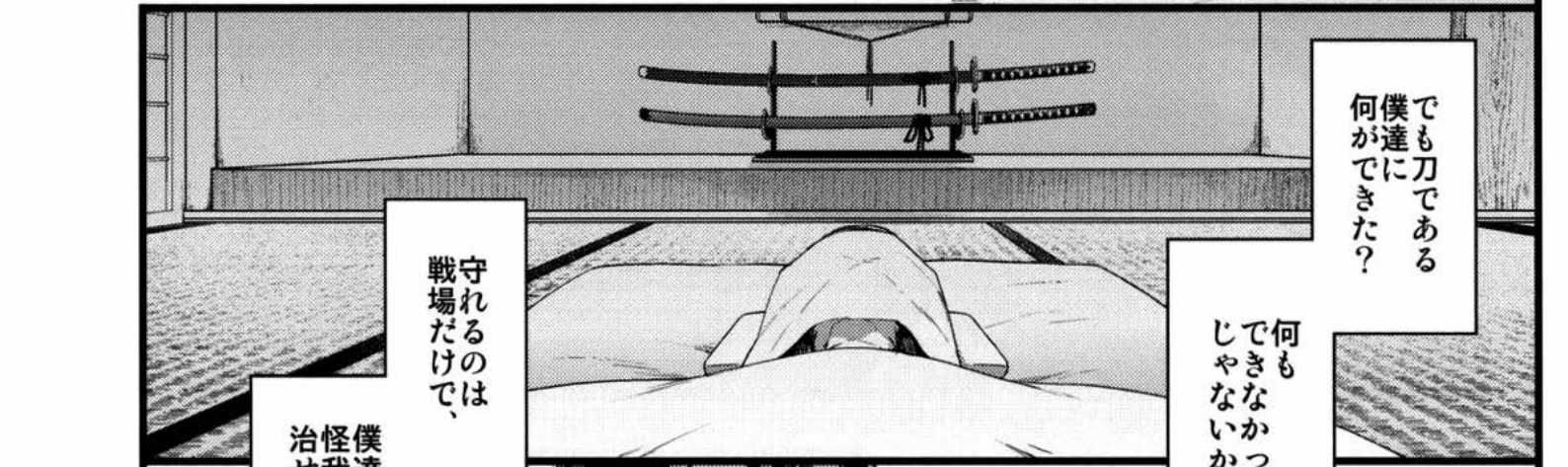
僕達にとって、
沖田くんは存在は
大きすぎて、

自分達がもともと
何だっただか
忘れてた

だから



あのときは
どうしようも
できなかった




でも刀である
僕達に
何ができた？

何も
できなかった
じゃないか

守れるのは
戦場だけで、

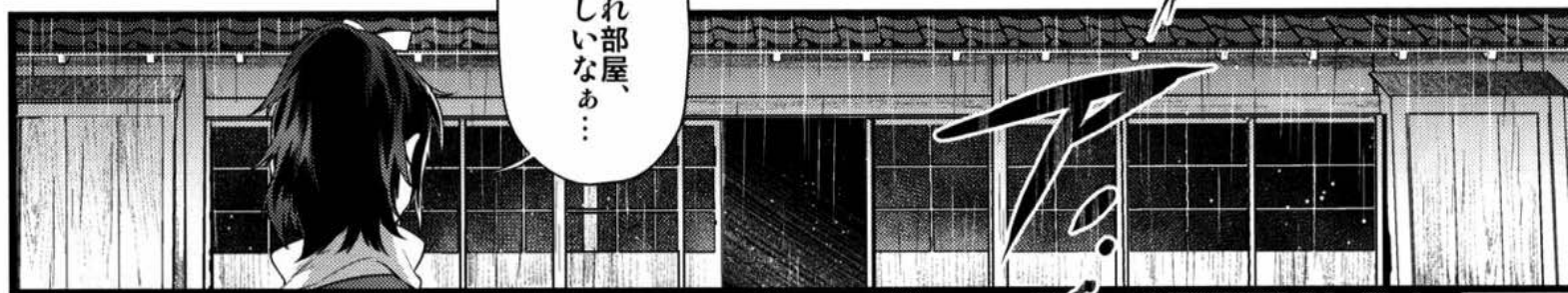
僕達に
怪我や病が
治せる術はない



今だって…



手入れ部屋、
騒がしいなあ…



清光…
大丈夫だよ

でも
また清光が
いなくなったら？



また？
僕一人？



僕は…

沖田くんも
清光も
いなくなったとき
どうしてたん
だっけ……

安定

山は
越したぞ

なんとか
主の手当てが
間に合ってたよ

今回は
随分と
肝を冷やされたが……

もう大丈夫
だそうだ



よかつた…っ

よかつ…



……っ!!

あのとき、
清光が
居なくなっていたら、

僕は
どうなってたん
だろう

カッ

すごく、
怖かった



咲
いてる……!

あ……

今朝は
綺麗に
いたじゃん

よ
か
っ
た
ね



何
湿っぽく
なってるのさ

ほら、

この通り
もう手当ても
十分してくれたん
だし、

ずっと
上の空みたい
な顔
してるけど





ちやんと
俺のこと
見てくれてる？





咲
露